

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第41号

平成14年4・5・6月



国宝 不空羈索觀音立像宝冠 東大寺藏

特別
展

大仏開眼1250年
東大寺のすべて
4月20日(土)~7月7日(日)
東西新館・本館

平常
展

佛教美術の名品
本館:2月8日(金)~4月14日(日)
西新館:1月4日(金)~4月7日(日)

東大寺のすべて

◆四月二〇日(土)～七月七日(日)

◆東西新館・本館

日本仏教の壮大な殿堂ともいいくべき奈良・

東大寺は、二〇〇二年に大仏開眼三五〇年を迎えます。これを記念して、同寺など所蔵する国宝・重要文化財を初めとする仏教美術の名宝を公開する大規模な展覧会です。

東大寺の大仏(盧舎那仏)^{るしゃなぶつ}は、聖武天皇の発願によって国家の総力を挙げて造られ、天平勝宝四年(七五二)に盛大な開眼法要が営されました。東大寺では、天平時代の技術の粋を凝らした仏教美術品が多く作られ、天平文化の一大中心となりました。

その後、東大寺は二度の兵火に遭いましたが、その度に再建され、幾多の時代を超えて、数多くの仏像彫刻や絵画・書跡・工芸品などが守られてきました。そのため、東大寺は仏教美術の宝庫ともなっています。今回の記念展では、日々目に触れるこ

との少ない秘宝の「国宝 僧形八幡神坐像」

「国宝 重源上人坐像」、天平塑像の最高傑作といわれる戒壇堂の「国宝 四天王像」、法華堂の「国宝 日光・月光菩薩立像」などきわめて貴重な寺宝が出品されるのをはじめ、国内外に流出した名宝の数々も里帰りします。出陳される宝物の総件数は二〇〇を越え、うち半数以上が国宝・重要文化財に指定されています。

まさに「東大寺のすべて」のタイトルにふさわしい内容であり、お越しの皆さんにも是非、この機会に十二分に御堪能いただけます。

「東大寺のすべて」を
御観覧ください。

△主な出陳品

○塑造日光・月光菩薩立像、○塑造

四天王立像

○不空羈索觀音立像玉冠、

○銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤、

○東大寺金堂鎮壇具、○木造良弁僧正坐像、○木造重源上人坐像、○木

造僧形八幡神坐像、○絹本著色俱舍

曼荼羅図、○紙本著色華嚴五十五所

絵巻、○葡萄唐草文染韋、○花鳥彩

絵油色箱、○八角燈籠火袋羽目板、

○南大門仁王像像内納入品、○東大

寺文書(以上いずれも東大寺蔵)など

わせて、東大寺法華堂では秘仏「国宝

執金剛神立像」の特別公開も行われます。

なお、奈良国立博物館での展覧会にあ

わせて、東大寺法華堂では秘仏「国宝

執金剛神立像」の特別公開も行われます。

まさに「東大寺のすべて」のタイトルにふさわしい内容であり、お越しの皆さんにも是非、この機会に十二分に御堪能いただけます。

「東大寺のすべて」を

御観覧ください。



国宝 金銅八角燈籠火袋羽目板 奈良時代 東大寺蔵



国宝 俱舍曼荼羅(部分) 平安時代 東大寺蔵



国宝 塑造日光菩薩立像 奈良時代 東大寺蔵

如是我聞一時佛在舍衛國祇樹給孤獨園尔時世尊將侍者阿難入城乞衛世尊身上所著之衣有少穿壞將欲以化應度衆生乞食周訖欲還所止有一婆羅門來至佛所為佛作禮願佛容顏光相殊特見佛身衣有少破壞心存惠施剗省空中得少白疊持用施佛唯願如來當持此納以用補衣佛即受之時婆羅門見佛受已心情歡喜倍加踊躍佛哀此人即與授決於當來世滿阿僧祇百劫之中當

国宝 賢愚經卷第十五(大聖武)(部分) 奈良時代 東大寺藏



国宝 塑造 四天王立像(広目天) 奈良時代 東大寺藏

平常展 佛教美術の名品

本館 2月8日(金)~4月14日(日)
西新館 1月4日(金)~4月7日(日)

西新館では、佛教美術の名品を絵画・書跡・工芸のジャンル別に展示します。また各分野では、隨時、特集展示も行っています。本館では、4月14日までは彫刻・考古の諸作品を陳列します。本館は、4月20日より東大寺展の会場となります。本館のみ見学希望の方は、平常展料金で入館ができます。



国宝 辟邪繪(神虫)(部分) 当館蔵



国宝 塑造月光菩薩立像 奈良時代 東大寺藏

展 示 評

神社について、なにかご存知ですか？

—「手向山八幡宮と手搔会」を観て—

重富滋子（大阪市立東洋陶磁美術館学芸課）

「外からみる奈良博」



展覧会中のエントランス付近

まだ春浅い一日、奈良国立博物館に出かけた。暖かい陽射しのせいか、奈良公園には、鹿が多くたむれ、その中に、角を突き合わせようとしたが、切られた角では組み合えず、離れて行く若い牡鹿たちがいた。その所在なさそうな姿に、思わず笑いを誘われながら、ふと思つた。なぜ、奈良に鹿がいるのか、そのわけを知つてゐる人は、この公園の中にどのくらいいるのだろうか。奈良のシンボルとして、鹿は定着しているが、あそこで鹿と記念写真を取り合つてゐるカップルに「どうして、奈良には鹿がいるのですか？」と聞いたら、果たして、答えてくれるだろうか。「鹿は春日大社のお使いだから」と。

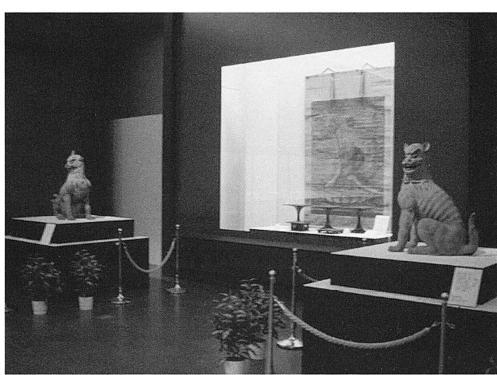
私達の日常生活にあまりに密着しているためか、かえつて神社について一般に知られていないことが多い。今回の展示のテーマである手向山八幡宮もその一つであろう。東大寺大仏造立のため、九州の宇佐八幡宮から東大寺へと、聖武天皇によって勧請された手向山八幡宮はきわめて格式の高い神社である。宇佐八幡宮からの勧請は、當時としてはまさに国家的大事業であり、『続日本紀』にも記載されている事項として知られている。また、その勧請時の影向の様が再現された手搔会は、勅祭として高い位置付けにおかれ、必要に応じ上皇の院宣が発せられるほどの南都最大の大祭礼であった。

今回の展示ではこの祭礼が復元され、また、直接その神事に携わつてこられた権宮司の上司延禮氏による講演会も行われた。余りお話する機会がないので、とおっしゃりながらであつたが、氏の熱意が感じられる好感のもてる講演であり、聴講者も多く、最後の質疑応答も活発に行われた。散会後も数人の方が引き続き質疑に残られ、やはり神社の様々な事にたいして、日頃不思議に思つてゐた人が多くこうした機会を利用するのだろうと感じられた。今回のような催しによって神社、ひいては神道美術への関心が高まればと願つてゐる。

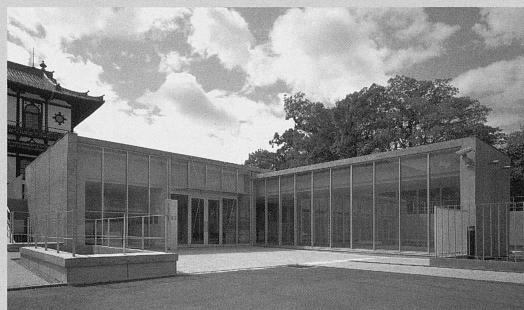
展示会場では写真パネルも利用して、祭礼の雰囲気を醸し出した展示となつてゐた。会場入口に据えられた神輿（重要文化財）は、背後に八

本の鉢を従え、威容を正し祭礼の華やかさがしのばれた。しかし、その中にも王朝文化の雅やかさが感じられたのは、作品自体の優雅さとあいまつて、ゆつたりとした展示構成も一因であつたと思われる。狛犬を八幡神画像のケース前に展示し植栽を配するなど、少し間違えれば過度になりがちの情景が抑えられ、しかも空間に潤いを与えていた。その会場に着物姿の婦人がおられたが、その佇まいはそばにいる私に、しつとりとした落ち着きを感じさせてくれた。

奈良国立博物館では、昨年の正倉院展の折、着付けをサービスし、着物で正倉院御物を見ようといった企画を実施した。女性の身としては興味があり、反響やいかにと伺つてゐたが、他日正倉院展を拝見に来館した時、月曜日でなかつたにも関わらず、多くの着物姿を目にすることことができた。その折には、さほどに感じなかつたが、こうして、ゆつたりとした空間で静かに歩を進める姿は、その場に穏やかな和らぎを与えるものだつた。美術を観賞する空間として最上のものを提供されたよう感じ、深い満足感をおぼえながら、館を後にした。



陳列風景



奈良国立博物館 文化財保存修理所の オープン

奈良博 NEWS

奥に、重要文化財の木造建築「仏教美術資料研究センター」がみえます。その手前側には、ガラスばかりの新しい建物が完成しています。それが、文化財保存修理所です。長い年月を経て伝えられてきた文化財は、多かれ少なかれ損傷を生じているのが普通です。特に、木造彫刻や絵画、書跡などは脆弱な材料を用いていることが多く、修理を加えながら、その生命を保つきました。言い換えると、文化財を後世に伝えるためには、その基盤として適切な修理を行う必要があるということになります。

奈良の地は京都と並んで貴重な文化財が多く、特に彫刻が集中していますが、奈良にはそのための十分な施設がありませんでした。奈良で文化財の修理ができればというのが、関係各方面の念願だったのです。

このような現状をふまえ、文化財の保存と公開を任務とする奈良国立博物館は、文化財保存修理所を開所することになりました。当館では、国民の財産である文化財の保存修理に貢献し、またその成果を展示などにも反映させることにより、博物館活動をより充実させていく予定です。

登大路通からは、東新館の南側奥に、重要文化財の木造建築「仏教美術資料研究センター」がみえます。その手前側には、ガラスばかりの新しい建物が完成しています。それが、文化財保存修理所です。長い年月を経て伝えられてきた文化財は、多かれ少なかれ損傷を生じているのが普通です。特に、木造彫刻や絵画、書跡などは脆弱な材料を用いていることが多く、修理を加えながら、その生命を保つきました。言い換えると、文化財を後世に伝えるためには、その基盤として適切な修理を行う必要があるということになります。

奈良の地は京都と並んで貴重な文化財が多く、特に彫刻が集中していますが、奈良にはそのための十分な施設がありませんでした。奈良で文化財の修理ができればというのが、関係各方面の念願だったのです。

●公開講座●

4月27日(土) 東大寺の歴史	大阪市立大学教授 栄原永遠男
5月18日(土) 東大寺の教学－華厳の教え－	東大寺管長 橋本 聖圓
6月 1日(土) 東大寺の絵画	学芸課長 梶谷 亮治
6月15日(土) 東大寺の建造物	仏教美術協会理事長 鈴木 嘉吉
6月29日(土) 大仏の変遷	名古屋大学教授 宮治 昭
7月 6日(土) 東大寺の彫像	館長 鶴塚 泰光

※13時30分より15時まで。講堂にて。聴講は無料。

ただし定員は200名。

●作品解説●

4月24日(水) 天平の塑像	仏教美術研究室長 松浦 正昭
5月 1日(水) 法華堂根本曼荼羅	美術室長 中島 博
5月 8日(水) 正倉院と東大寺の工芸	工芸室長 内藤 繁
5月15日(水) 東大寺の金堂鎮壇具と考古遺品	仏教美術資料研究センター長 井口 喜晴
5月22日(水) 東大寺の復興と工芸	研究員 伊東 哲夫
5月29日(水) 華嚴五十五所絵	研究員 谷口 耕生
6月 5日(水) 聖武天皇・重源上人・公慶上人	資料管理研究室長 西山 厚
6月12日(水) 盧舎那仏の造形	研究員 稲本 泰生
6月26日(水) 僧形八幡神像について	学芸課長 梶谷 亮治
7月 3日(水) 東大寺の鎌倉復興造像	企画室長 岩田 茂樹

※ いずれも14時より。講堂にて。聴講無料。ただし定員は200名。

●「親と子の文化財教室」受講者募集●

5月11日(土) 奈良時代と平城京(現地見学)	教室長 宮田康和 解説ボランティア
6月 8日(土) 特別展「東大寺のすべて」	解説ボランティア
7月13日(土) 奈良時代の寺院	仏教美術資料研究センター長 井口喜晴
8月10日(土) 奈良時代の彫刻	仏教美術研究室長 松浦正昭

※小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。今年度は『奈良時代の歴史と美術』をテーマに勉強します。※はがきに、「親と子の文化財教室参加申込」と記入の上、氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望される月日(いくつでもかまいません)を必ず記入して、〔〒630-8213奈良市登大路町50 奈良国立博物館 教育室〕まで、お申し込みください。(FAX可)※参加費は無料ですが、現地見学の際は実費が必要です。定員は100名(先着順)。当館講堂において10時から12時まで行います。

●ボランティアによる解説(ご案内)●

ボランティアによる解説は、特別展「東大寺のすべて」の期間中、講堂にて開館日の10時30分～と13時30分～の2回実施の予定です(各回40分程度、講座などがない時のみ)。なお、平常展期間中は展示室で行います。

●夏季講座●

本年も夏季講座を開催する予定です。テーマ・日程などの詳細は、教育室までお問い合わせください。

●平成14年4・5・6月の展覧会日程●

	4月	5月	6月
本 館	平常展(～4/14) 休館(4/16～19)	東大寺のすべて(4/20～7/7)	
西 新 館	平常展(～4/7) 休館(4/9～19)	東大寺のすべて(4/20～7/7)	
東 新 館	休館(～4/19)	東大寺のすべて(4/20～7/7)	

展示品の見どころ

国宝 東大寺金堂鎮壇具

奈良時代 東大寺藏
(右上) 銀製鍍金狩獵文小壺

総高 4.4 cm
(右下) 銀製鍍金蟬形鏹子
座金長 8.1 cm



明治40年～41年にかけて、東大寺大仏殿の修理工事の際に足場の支柱を立てる必要から、大仏殿須弥壇上を壺掘りしたところ、思いがけなく多数の宝物が出土した。それが、この金堂鎮壇具と呼ばれている品々である。それらは、大仏铸造後、金堂(大仏殿)の完成までの間に納められた可能性が強く、東大寺創建当初の遺品とみられる。正倉院宝物と共に天平文化の精粹を示す貴重な文物である。

写真の上は、そのうちに含まれる、銀製鍍金の小壺である。身の外面には、二方に、騎馬人物が鹿を追い狩猟する図が刻され、その間に山岳文や草木文様が配されている。狩猟文は、西方的な要素の強い文様としてよく知られる。この銀製小壺には、大小2箇の水晶製合子が納められ、その中にはさらに水晶玉や真珠玉などが納められていたようである。

写真下は、銀製鍍金鏹子、すなわち現在の錠前に当たる。蟬形をした珍しい形状の海老錠(鏹子)と、宝相華唐草文を透彫りした座金からなる。上下に分かれた座金具のそれぞれに足金具を1本ずつ立て、それを蟬の鏹子で留める構造になっている。蟬の眼の間に匙(かぎ)の挿入孔がある。これと同時に出土したものとしては、草花文を金銀泥で描いた漆皮箱があり、この鏹子はその漆皮箱に取りつけられていた錠前と推測される。

今回の特別展「東大寺のすべて」では、普段は展示することの少ない、上記の漆皮箱もふくめ、金堂鎮壇具を一堂に展示する予定なので、是非じっくりとご覧いただきたい。

(考古室 高橋照彦)



■開館時間=9時30分～17時(4月26日[金]より毎週金曜日は19時まで)

※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日=月曜日(ただし4月29日、5月6日は開館、5月7日[火]は休館。)

■観覧料金

平	一般	大学・高校生
常	420円	130円
展	210円	70円

特	一般	大学・高校生	中学・小学生
別	1300円	900円	600円
展	前売・団体	700円	400円

※団体は責任者が引率する20名以上

※「東大寺のすべて」展の前売り券は、奈良博窓口(4月14日まで)もしくは近畿日本ツーリスト、近鉄・JR西日本・JR東海の主要駅、チケットぴあ(Pコード467-509)、ローソンチケット(Lコード51526)ほか主要プレイガイドで発売中。

※「東大寺のすべて」開催中に本館のみ観覧の方は、平常料金で入館できます。



[交通案内]近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵便をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画室にお申し込み下さい。

奈良国立博物館
Nara National Museum